

本論文は

# 世界経済評論 2023 年 1/2 月号

(2023 年 1 月発行)

掲載の記事です



## 世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料  
OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読  
期間中

### デジタル版バックナンバー 読み放題!!



世界経済評論 定期購読



0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

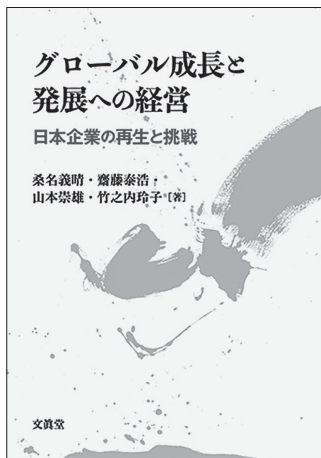
Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。  
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp

雑誌のオンライン書店

## グローバル成長と 発展への経営 ：日本企業の再生と挑戦

専修大学経営学部教授 **今井 雅和**



[著者] 桑名 義晴 (くわな よしはる)  
 桜美林大学名誉教授  
 齋藤 泰浩 (さいとう やすひろ)  
 桜美林大学ビジネスマネジメント学群教授  
 山本 崇雄 (やまもと たかお)  
 神奈川大学経済学部教授  
 竹之内 玲子 (たけのうち れいこ)  
 名城大学社会イノベーション学部教授  
 [発行] 文眞堂, 2022年5月  
 [判型] A5判, 236ページ  
 [定価] 本体2,800円+税

評者は、本書を通読しながら、“Cool head, but warm heart”という、かのA. マーシャルの言葉を何度も思い浮かべた。国際ビジネスのベテラン研究者と脂ののりきった中核研究者による冷静で緻密な研究成果である。各自の研究テーマの古くて新しい論点と最新の理論研究を踏まえた、地に足のついた論稿である。と同時に、日本企業が世界のなかで輝きを取り戻すためにはどうしたらよいかを、イノベーション創出をキーワードに、暖かくそして熱く語った良書でもある。

第1, 2章は社外ネットワークを活用し、ビジネスエコシステムの中核となり、探索的なイノベーション活動を行うことの重要性を強調する。第3章はこれまでの研究を丁寧にレビュー

し、事例を基に両利きグローバル・マトリックスの概念を提唱する。第4章は海外子会社が多国籍企業グループのみならず、社外のネットワークにも帰属するという、二重の埋め込みからの議論である。第5, 6章はイノベーション創出における組織文化の役割と企業内の新規事業創造のあり方を提案する。第7, 8章は新興国ビジネスでの海外派遣者の役割と、先駆者たる新興国多国籍企業とのアライアンスによって、日本企業も経営資源を強化できることを、事例に沿って提起する。終章は多国籍企業のあるべき経営モデルを示し、未来社会の創造を展望する。

経営分野の研究者による著書では、「学生、研究者、実務家に読んでもらいたい」との推薦文をしばしば目にする。本書も学生、研究者に読んでほしい研究書である。加えて、評者としては、「実務家にこそ読んで欲しい書籍」と強調したい。「難しいことを、やさしく、面白く」というのは至言であるが、それは一般向けのメッセージにすぎない。実務家はプロとして自ら理解し、底流に流れる変わらぬ真理を捉えなければならない。研究書ながら、事例が生き生きと描写され理解しやすい。ハウツーは分かりやすいが、各社、各事業には特徴があり、他者の手法をそのまま適用してもうまく定着しない。イノベーションによる新事業の創出は経営者の経営姿勢に左右される。是非ともコア概念を理解したうえで自社にあった適応を実行してほしい。

国際ビジネスから少し離れるため、本書では触られていない点を1つ挙げておきたい。それはイノベーション創出のためのマクロ環境についてである。本書は欧米先進企業との比較において、変わり切れない日本企業に対する問題意識を出発点とする。しかし、平均的な日本企業と欧米のスーパースター企業との対比は「リング同士」の比較ではない。実際、欧米の20世紀型多国籍企業の多くも同様の困難に直面している。20世紀の終わりから21世紀にかけて世に出た新興企業が日本には少ないことこそ問題なのである。起業・廃業率が低い「少産少死」で、低温状態が続く日本経済の制度面にこそ目を向ける必要があるのかも知れない。

(いまい まさかず)